令和6年度（2024年度） 第2回基幹公共交通機能強化部会 議事録

I 日時等

1. 日時：令和7年（2024年）2月14日（金）15時00分～16時00分
2. 場所：アークホテル熊本城前 2階 椿（つばき）

II 主な内容

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 議事
  - （1）JR新水前寺駅における交通結節機能強化について
  - （2）熊本地域公共交通計画の一部改定について
4. 報告事項
市電延伸事業について

（事務局説明）

- ・ 資料1～3を用いて説明

【議事（1） JR新水前寺駅における交通結節機能強化について】

（委員）

- ・ 新水前寺駅前、夕ピーク時に信号待ちの通行者がかなり多く混雑している状況を見受けるが、そういった混雑状況の確認も行ったのか。

（事務局）

- ・ 日ごとの天候などにより状況は異なるが、実験中は14時間カメラによる撮影をしており、その状況を踏まえて交通への大きな影響はないと判断している。

（委員）

- ・ 歩道が狭くなることから、歩行者と自転車との接触対策はどう考えているのか。

（事務局）

- ・ 歩道が一部狭くなる理由としては、橋脚がある部分はどうしても移設ができないからであるが、駐輪場が歩道に隣接しているため、駐輪場の一部を歩道として活用できないか、また、路面標示などにより安全対策ができないか検討していきたい。

(委員)

- この事業に伴い用地取得は発生するのか。

(事務局)

- バス停上屋やベンチを整備する計画としており、これらは既存歩道に設置することとなるため、新たに歩道幅員を確保する必要がある。その部分については用地買収が必要と考えている。

(委員)

- 用地買収により少しでも歩道が確保できるように努めてほしい。

(委員)

- 歩行者の接触は見られなかったとのことであるが、バリアフリーの観点から車いすが通行できる導線の確保に期待したい。
- まずは上り側の検討であることは承知しているが、下り側のバス停設置についても今後検討してほしい。

(委員)

- アンケート回答者数はどの程度見込んでいたのか。また、年代は確認しているか。

(事務局)

- アンケート回答者数の具体的な目標数は定めておらず、直接市電利用者に配るなどして少しでも多くの回答者数が得られるように努めた。また、年代についてはアンケート質問項目に入れていないため把握していない。

(委員)

- この回答者数であれば一定の利用者の意向を示した結果になっていると思うが、年代によって考え方が異なるため、今後下りのバス停設置の検討も含めてアンケート調査を行うことがあれば、年代を入れることも考慮してもらえたらと思う。

(委員)

- 市電が180円から200円に賃上げする見込みであるため、バスの方が運行本数が多いことに加え、対象区域内であれば180円とバスの方が安いことを発信していくことも必要と考える。

(部会長)

- 今後、ハード整備のみではなくそのようなソフト対応も併せて行っていくことで、市電

からバスへの利用転換や利便性向上に繋げてほしい。

【議事（２） 熊本地域公共交通計画の一部改定について】

（委員）

- ・ 地域公共交通計画に位置付けることについては意見無し。
- ・ 先日発生した自動運転バスの事故については現在検証中と思われるが、事故状況については対外的にお知らせした方が良いのでは。

（部会長）

- ・ 実証実験の開始時期については未定ではあるが、親会（協議会）の場で改めて状況報告いただきたい。

（委員）

- ・ 地域公共交通計画への位置づけについて、既存項目である「（１）基幹公共交通の機能強化」の中ではなく、新たな項目として「（６）新技術を活用した移動手段の検討」を追加した狙いは何なのか。
- ・ 先日の事故に関連して、自動運転バスの動きや特性、一般の道路利用者がどのように注意を図るべきか等を啓発した方が良いのではないか。そうすることで社会受容性も高まるのではないか。

（事務局）

- ・ 自動運転を含む新技術の活用を、基幹公共交通に限らず検討していきたいと考えていることから、新たな項目として立てている。
- ・ 自動運転バスの特性に関してはご指摘のとおりであり、自動運転バスだからこその特性を伝えることが、社会受容性の向上に繋がると改めて認識したところ。これらについては今後市民に対して分かり易く発信していきたい。

（部会長）

- ・ 今回は乗客がいないタイミングでの事故であったが、今後は車内事故についても対応できるようにして安全性を確保頂きたい。
- ・ 新技術の活用を検討する理由としては、運転士不足への対応のみならず、例えば個別輸送のような交通弱者対応等についても盛り込んでみてはどうか。

（委員）

- ・ 現地域公共交通計画の計画目標３に、「既存の枠組みに囚われない支援」と記載があるが、その内容については具体的に明記されているのか。

(事務局)

- ・ その前段に記載のある「公共交通の維持・確保等にむけた行政支援のあり方」に関する目標であり、現在の行政支援の手法をこのまま続けて良いのか、常に変化をしていく必要があるという理念として掲げられていると認識している。

(委員)

- ・ 抽象的で分かりづらい印象がある為、もう少し具体的に狙いなどを明示頂きながらこのような場での議論ができると良いのでは。
- ・ これまでの行政支援のみならず、枠組みや市民の意識などについても改善すべきところがあれば改善を進めていくと良いのでは。

(部会長)

- ・ この議事については、事務局提案のとおり進めて頂きたい。

【報告事項 市電延伸事業について】

(委員)

- ・ 令和6年に運行トラブルが続き、このような状況になり申し訳ない。
- ・ 1月末に外部委員会からの最終報告があり、現在、運輸局からの改善指示への最終報告のとりまとめを進めているところ。
- ・ その内容等については、改めてご説明させていただく。
- ・ 急ぎ対応ができるもの（職員研修、軌道の補修など）は、速やかに対応し、原因究明についても進めていきたい。
- ・ 先日、JR九州から講師を派遣いただいたが、研修により、職員が気づき、学び、自分達で話し合うということをはじめたところ。
- ・ 延伸事業の延期については、ご理解いただきたい。

(委員)

- ・ このような市電延伸に関する状況は、問題を共有すべき。
- ・ 昨年第3回定例会で補正予算に計上し、それを今回の議会（R7第1回定例会）で減額するということは、由々しきこと、ありえないことであるため、猛省してもらいたい。
- ・ 補正予算が計上された時、私自身は課題が多く、拙速ではないかと反対した。
- ・ 市電延伸事業は、高度化計画の中に位置付けられているため、11月に高度化計画の延期を判断した段階で、市電も延期を行うべきと市長に判断を求めるべきだったのではないかな。
- ・ 延期を判断したのはいつなのか。

(事務局)

- 市電延伸には長い時間を要することから、11月時点では、足元の安全対策に取り組みつつ、将来の基幹公共交通軸の強化に繋がる検討についても進めていくという考えだった。
- その後、運行トラブルが収まらず、年末の脱線事故や年明けの運休など、事態が好転しないことを受け、執行部から進言し、市長が判断した。

(委員)

- 市電延伸は、議会で議決し、都計審にも諮り、オーソライズされたもの。
- それぞれの会議体の存在意義にも関わる。
- 信頼、信用を裏切らないように進めてもらいたい。
- 都市建設局、交通局ともに、問題を共有してもらいたい。
- 用地買収はどうするのか。

(事務局)

- 用地買収を含め、一旦、立ち止まることになる。

(委員)

- これまでの対応は、後手後手に回っている感があったため、これを機に精査してもらいたい。
- 再開する際は、地元の方々にも丁寧に説明を行うようにしてもらいたい。